

皇居のクモ類 第Ⅲ期調査結果

奥村賢一*・小野展嗣

国立科学博物館動物研究部 〒305-0005 茨城県つくば市天久保4-1-1
*E-mail: okumura@kahaku.go.jp

Spiders Recorded in the Imperial Palace: Results of the Third Survey

Ken-ichi Okumura* & Hirotugu Ono

Department of Zoology, National Museum of Nature and Science,
4-1-1 Amakubo, Tsukuba-shi, Ibaraki 305-0005, Japan
*E-mail: okumura@kahaku.go.jp

Abstract. Spider surveys at the Imperial Palace by researchers of the National Museum of Nature and Science have been performed previously from 1996 to 2000 (Phase I), 2001 to 2005 (monitoring survey), and 2009 to 2013 (Phase II). As a result of previous surveys, the cumulative number of species identified by the end of 2013 was 191. These include notable species for understanding the environment of urban centers, e.g. the species selected on the red lists of the Ministry of the Environment and the Tokyo Metropolitan Government Bureau of the Environment, and the species whose distribution ranges are moving northward due to global warming. The third survey was conducted from 2021 to 2025 to clarify the current status of spiders in the Imperial Palace with reference to previous results. Particular emphasis was placed on confirming the habitat status of rare species, the impact of environmental changes on species and populations, and the presence or absence of invasive species. In this way, we attempted to obtain the data necessary to consider whether the habitat conditions are changing over time in the largest natural environment in the urban area. The number of individuals obtained through the third survey was approximately 2,100, and 138 species in 31 families were identified. Of these, 20 species, including four invasive species, were identified for the first time in this survey. In particular, there are three invasive species found only in Higashi-Gyoen, the east area of the Imperial Palace, which was not survey spot in the past. Furthermore, there are 73 species that were known to inhabit in the past but could not be found this time. Among these are several species that are generally considered common and were originally thought to be findable. When combined with past data, 211 species have been identified within the Imperial Palace to date.

Keywords: Araneae, conservation ecology, Tokyo, urban environment.

はじめに

国立科学博物館の研究者らによる皇居でのクモ類調査はこれまでに1996年から2000年（第Ⅰ期）、2001年から2005年（モニタリング調査）、2009年から2013年（第Ⅱ期）にかけて行われてきた。第

Ⅰ期調査では過去に行われた別の調査によるデータも含める形で145種が報告された。モニタリング調査では新たに発見された20種を含む計117種が確認された。第Ⅱ期調査ではさらに26種が追加され2013年末までの全ての調査結果の累計は191種となった。これらの中には環境省や東京都本土



図1-4. 主な調査地. 1, 吹上御苑観瀑亭周辺; 2, 生物学研究所周辺; 3, 下道灌濠で造網するコガネグモ; 4, 中道灌濠でのスウィーピング調査

域のレッドリストに含まれる絶滅危惧種や、温暖化の影響で分布域が北上中の種など、都心部の環境を考えるにおいて注目されるべき種も含まれている。これらの結果はいずれも第2著者を中心とした調査によるものである。

今般2021年から2025年にかけて第Ⅲ期調査が実施され、これまでの結果も参考にしつつ皇居におけるクモ類の現況を明らかにすることとした。特に希少種の生息状況の確認や環境変化が種や個体数にもたらす影響、外来種の有無確認などに重点を置くことで、都心部で最大規模の自然環境において生息状況が経年変化しているかどうかを考察するのに必要なデータを得ることを試みた。

調査の概要

1. 主な調査地 (図1-4)

- ・吹上御苑花蔭亭～大宮御所周辺
- ・吹上御苑観瀑亭周辺

- ・生物学研究所周辺
- ・下道灌濠～中道灌濠周辺
- ・東御苑厩舎周辺

2. 採集方法

主に、見つけ採り、ビーティング (叩き落とし法)、スウィーピング (すくい捕り法)、シフティング (篩い取り法)

調査日および調査者

- 1) 2021年9月14日 奥村賢一・小野展嗣・水越かのん
- 2) 2021年11月2日 奥村賢一・小野展嗣
- 3) 2022年3月8日 奥村賢一・小野展嗣
- 4) 2022年5月17日 奥村賢一・小野展嗣・水越かのん
- 5) 2022年7月12日 奥村賢一・小野展嗣
- 6) 2022年9月6日 奥村賢一・小野展嗣
- 7) 2022年12月15日 奥村賢一・小野展嗣

- 8) 2023年 5月16日 奥村賢一・小野展嗣・水越かのん
 9) 2023年 7月4日 奥村賢一・小野展嗣
 10) 2023年 8月4日 奥村賢一・小野展嗣
 11) 2023年 9月12日 奥村賢一・小野展嗣
 12) 2023年12月13日 奥村賢一・小野展嗣
 13) 2024年 5月14日 奥村賢一・小野展嗣・水越かのん
 14) 2024年 7月23日 奥村賢一・小野展嗣
 15) 2024年 9月17日 奥村賢一・小野展嗣
 16) 2024年 11月19日 奥村賢一・小野展嗣
 17) 2025年 7月1日 奥村賢一・小野展嗣

結 果

第Ⅲ期の調査によって得られた個体数は約2,100個体で、同定結果により32科138種が確認された。このうち今回の調査での初確認は4種の外来種を含め20種であった。特に外来種は過去に調査対象の地域ではなかった東御苑のみでしか発見されなかった種が3種存在する。一方で過去に生息が確認されたが今回発見できなかった種は73種で、中には一般的に普通種とみなされる種で当初は発見できると考えられていたものの、見つからなかった種も複数存在した。

過去に得られた全ての種について、種ごとの詳細な説明は第Ⅱ期調査結果の報文で既になされている（小野，2014）。そのため本報文では後に述べる一部の種を除き新規発見の種のみに解説をつけることとする。リストについては今期調査で発見された種のみを挙げた上で、過去に記録はあるが今期の未発見種については別途表（次頁）にまとめた。なお発見種のリストに関しては、個体数が多く広範囲で随時発見できた種の採集データは省略した形とする。また再発見されなかった種のうち、生息環境について考察する上で特に重要と思われる種については参考情報として選択し、説明を加えることとした。

第Ⅲ期調査で確認された種を過去のデータに加えると、最終的に皇居内でこれまでに確認された種数はトータルで211種となる。第Ⅱ期調査結果の報文には、未発見の種が存在するはずなので将来的には200種を超えることが予想されるとの記述があり（小野，2014）、今回の調査で予想通りの結果となった。以下の項目に示す各種の分類体系や学名は、ごく一部の種を除きWSC（World Spider Catalog 2025）に沿う形とした。

1. 第Ⅲ期調査での新規発見種（次項で述べる外来種4種は除く）（図5-20）

各種の説明は千国，1989，新海，2006，小野&緒方，2018を参考とした。

イトグモ科 Sicariidae Keyserling, 1880

イトグモ *Loxosceles rufescens* (Dufour, 1820) (図5) 体長：7-10mm. 6眼のクモで、背甲や歩脚は黄褐色、腹部は灰褐色でいずれの箇所にも斑紋は有さない。地中海沿岸から北アフリカ付近が原産という報告があり（Nentwig *et al.*, 2017）、現在は世界中で確認されている。人為的な分布拡大のため外来種ともみなせるが、国内には古くから定着しており特に西日本ではよく見られる。屋内にも生息しタンスの引き出し内や押し入れの中から発見されることもある。毒性の強い同属種のドクイトグモ *Loxosceles reclusa*（国内への侵入は今のところない）は特定外来生物に指定されているが、本種による重大な咬症事例も2017年に公表され危険性の高いことが判明した（森戸，2017）。そのため衣類の取り出しや着る際などには付着の有無に注意する必要がある。

本種は吹上御苑側での調査では過去同様に得られなかったが、補足的に行った東御苑での調査において建造物脇で採集された。

採集データ

2♀，1-VII-2025，東御苑厩舎周辺，奥村賢一採集。

ユウレイグモ科 Pholcidae C. L. Koch, 1850

イエユウレイグモ *Pholcus phalangioides* (Fuesslin, 1775) (図6)

体長：雌8-10mm，雄7-8mm。屋内性のクモとしてはオオヒメグモと同様によく見られる種であるが、吹上御苑側のみで行われてきたこれまでの調査では確認されなかった。今回東御苑での調査で得られた個体は雄の亜成体であるが、同域に定着している外来種のオダカユウレイグモとは腹部の形状が明瞭に異なるため本種であることが明らかとなった。採集場所は地下に設置された浄水場へ降りる階段先で、非常に狭く局所的であった。同箇所にはオダカユウレイグモは存在しておらず、後者が多数確認される厩舎や周辺の建造物とは別の環境で棲み分けが行われていた可能性がある。本種は西アジア原産のため過去に移入したと考え

科	Family	種	Species	第II期確認有無	備考
ジグモ科	Atypidae	ジグモ	<i>Atypus karschii</i> Dönitz 1887	○	
カネコトタテグモ科	Antrodiaetidae	カネコトタテグモ	<i>Antrodiaetus roretzi</i> (L. Koch 1878)	×	レッドリスト選定種
タマゴグモ科	Oonopidae	アカハネグモ	<i>Orchestina sanguinea</i> Oi 1955	×	
		ナルトミダニグモ	<i>Ischnothyreus narutomi</i> (Nakatsudi 1942)	×	
		ダニグモ	<i>Gamasomorpha cataphracta</i> Karsch 1881	○	過去の記録は1個体のみ
ユウレイグモ科	Pholcidae	ユウレイグモ	<i>Pholcus crypticolens</i> Bösenberg & Strand 1906	○	過去の記録は1個体のみ
		シモングモ	<i>Spermophora senoculata</i> (Dugès 1836)	×	過去の記録は1個体のみ
マシラグモ科	Leptonetidae	ヤマトマシラグモ	<i>Falcileptoneta japonica</i> (Simon 1893)	×	レッドリスト選定種
ヒメグモ科	Theridiidae	ヤマトコノハグモ	<i>Enoplognatha caricis</i> (Fickert 1876)	×	
		ハンゲツオスナキグモ	<i>Steatoda cingulata</i> (Thorell 1890)	○	過去の記録は1個体のみ
		ハラダカツネグモ	<i>Phoroncidia altiventris</i> Yoshida 1985	○	
		バラギヒメグモ	<i>Takayus chikunii</i> (Yaginuma 1960)	×	過去の記録は1個体のみ
		オオツリガネヒメグモ	<i>Parasteatoda tabulata</i> (Levi 1980)	○	
		キヒメグモ	<i>Parasteatoda asiatica</i> (Bösenberg & Strand 1906)	×	
		キヨヒメグモ	<i>Kejiella oculiprominentis</i> (Saito 1939)	×	過去の記録は1個体のみ
		トビジロイソウロウグモ	<i>Argyrodes cylindricus</i> Thorell 1898	×	過去の記録は1個体のみ
		ツノナガイソウロウグモ	<i>Neosiphonurus nipponicus</i> (Kumada 1990)	×	過去の記録は1個体のみ
		ヤリグモ	<i>Rhomphaea sagana</i> (Dönitz & Strand 1906)	×	過去の記録は1個体のみ
		ヒゲナガヤリグモ	<i>Rhomphaea labiata</i> (Zhu & Song 1991)	○	
		ボガシジグモ	<i>Yaginuma castrata</i> (Bösenberg & Strand 1906)	○	
ホラヒメグモ科	Nesticidae	アズマコホラヒメグモ	<i>Nesticella terrestris</i> (Yaginuma 1970)	×	
コツブグモ科	Mysmenidae	ナンブコツブグモ	<i>Microdipoena pseudojobi</i> (Lin & Li 2008)	×	
コガネグモ科	Araneidae	ヤマトカナエグモ	<i>Chorizopes nipponicus</i> Yaginuma 1963	×	
		スズミグモ	<i>Cyrtophora ikomosanensis</i> (Bösenberg & Strand 1906)	○	南方系種(北上中)
		ヨツデゴミグモ	<i>Cyclosa sedeculata</i> Karsch 1879	○	
		コグチャオニグモ	<i>Neoscona punctigera</i> (Doleschall 1857)	×	過去の記録は1個体のみ
		コガネグモダシ	<i>Larinia argiopiformis</i> Bösenberg & Strand 1906	×	過去の記録は1個体のみ
		キザハシオニグモ	<i>Gibbaranea abscissa</i> (Karsch 1879)	×	
		マルツメオニグモ	<i>Neoscona semilunaris</i> (Karsch 1879)	×	
		ハツリグモ	<i>Acusilas coccineus</i> Simon 1895	×	過去の記録は1個体のみ
アシナガグモ科	Tetragnathidae	シコクアシナガグモ	<i>Tetragnatha vermiformis</i> Emerton 1884	×	
サラグモ科	Linyphiidae	スガナミヤジコナグモ	<i>Tapinocyba suganami</i> Saito & Ono 2001	○	
		ナラヌカグモ	<i>Parhyponma naraense</i> (Oi 1960)	×	過去の記録は1個体のみ
		ザラアカムネグモ	<i>Asperthorax communis</i> Oi 1960	○	
		オオサカアカムネグモ	<i>Ummeliata osakaensis</i> (Oi 1960)	○	過去の記録は1個体のみ
		ヤマトトウジヌカグモ	<i>Tojinium japonicum</i> Saito & Ono 2001	○	
		ニセアカムネグモ	<i>Gnathonarium exsiccatum</i> (Bösenberg & Strand 1906)	○	
		クロスジアカムネグモ	<i>Gnathonarium gibberum</i> Oi 1960	○	過去の記録は1個体のみ
		テングヌカグモ	<i>Paikiniiana mira</i> (Oi 1960)	×	
		コテングヌカグモ	<i>Paikiniiana vulgaris</i> (Oi 1960)	×	過去の記録は1個体のみ
		クロナンキングモ	<i>Hylyphantes graminicola</i> (Sundevall 1830)	○	過去の記録は1個体のみ
		アゴヒゲサラグモ	<i>Nispa barbatus</i> Eskov 1993	×	
		マルムネヒザグモ	<i>Erigone edentata</i> Saito & Ono 2001	×	過去の記録は1個体のみ
		デーニッツサラグモ	<i>Doenitzius peniculus</i> Oi 1960	×	
		クロケシグモ	<i>Agyneta nigra</i> (Oi 1960)	×	過去の記録は1個体のみ
ウズグモ科	Uloboridae	オウギグモ	<i>Hyptiotes affinis</i> Bösenberg & Strand 1906	×	
ハウシグモ科	Zodariidae	ドウシグモ	<i>Asceua japonica</i> (Bösenberg & Strand 1906)	×	レッドリスト選定種
タナグモ科	Agelenidae	ヤマヤチグモ	<i>Tegeocloetes corasides</i> (Bösenberg & Strand 1906)	○	
ハグモ科	Dictynidae	タイリクカレハグモ	<i>Qiyunia lehtineni</i> Song & Xu 1989	○	国内初記録(2009年)
		ヒナハグモ	<i>Dictyna foliicola</i> Bösenberg & Strand 1906	○	
キシダグモ科	Pisauridae	アズマキシダグモ	<i>Pisaura lama</i> Bösenberg & Strand 1906	×	過去の記録は1個体のみ
コモリグモ科	Lycosidae	キバラコモリグモ	<i>Pirata subpiraticus</i> (Bösenberg & Strand 1906)	○	
		イモコモリグモ	<i>Piratula piratoides</i> (Bösenberg & Strand 1906)	×	
		コガタコモリグモ	<i>Piratula tanakai</i> (Brignoli 1983)	×	
		アライトコモリグモ	<i>Trochosa ruricola</i> (De Geer 1778)	×	過去の記録は1個体のみ
フクログモ科	Clubionidae	ムナアカフクログモ	<i>Clubiona vigil</i> Karsch 1879	×	
		ヤハズフクログモ	<i>Clubiona jucunda</i> (Karsch, 1879)	○	
		トビロフクログモ	<i>Clubiona lena</i> Bösenberg & Strand 1906	○	
		ヨモギフクログモ	<i>Clubiona neglectoides</i> Bösenberg & Strand 1906	○	過去の記録は1個体のみ
ワシグモ科	Gnaphosidae	シノノメトンビグモ	<i>Hitobia asiatica</i> (Bösenberg & Strand 1906)	○	
		ナミトンビグモ	<i>Sanitubius anatolicus</i> (Kamura 1989)	○	
		ホシジロトンビグモ	<i>Sergiolus hostzoi</i> (Yaginuma 1960)	○	過去の記録は1個体のみ
コマチグモ科	Cheiracanthidae	カバキコマチグモ	<i>Cheiracanthium japonicum</i> Bösenberg & Strand 1906	×	
		ヤサコマチグモ	<i>Cheiracanthium unicum</i> Bösenberg & Strand 1906	×	過去の記録は1個体のみ
カニグモ科	Thomisidae	ヨコフカニグモ	<i>Xysticus transversomaculatus</i> Bösenberg & Strand 1906	×	レッドリスト選定種
		ソウシキカニグモ	<i>Xysticus saganus</i> Bösenberg & Strand 1906	×	
		オビボソカニグモ	<i>Xysticus trizonatus</i> Ono 1988	×	レッドリスト選定種
		チシマカニグモ	<i>Xysticus kurilensis</i> Strand 1907	×	
ハエトリグモ科	Salticidae	モンシロコグチャハエトリ	<i>Attulus fasciger</i> (Simon 1880)	×	過去の記録は1個体のみ
		ジャバラハエトリグモ属の1種	<i>Helicis</i> sp.	×	未記載種
		オスクロハエトリ	<i>Mendoza canestrinii</i> (Ninni 1868)	○	
		ヤハズハエトリ	<i>Mendoza elongata</i> (Karsch 1879)	×	
		キレワハエトリ	<i>Sibianor pullus</i> (Bösenberg & Strand 1906)	○	



図5-10. 第Ⅲ期調査新規発見種。5, イトグモ *Loxosceles rufescens*; 6, イエユレイグモ *Pholcus phalangioides*; 7, キベリミジグモ *Phycosoma flavomarginatum*; 8, コガタコガネグモの網; 9, イエオニグモ *Neoscona nautica*; 10, サガオニグモ *Plebs astridae*

られるが、イトグモ同様に古くから定着しているため在来種としての扱いである。

採集データ

1♂亜, 1-VII-2025, 東御苑厩舎周辺, 小野展嗣採集。

ヒメグモ科 *Theridiidae* Sundevall, 1833

キベリミジグモ *Phycosoma flavomarginatum* (Bösenberg & Strand, 1906) (図7)

体長：雌雄2-2.5mm。背甲の中央に太い黒色の縦状斑があり側方は黄白色（雄ではやや黒化する場合もある）、腹部は黒色である。また第4脚腿節には明瞭な輪紋がある。以上の特徴は雌雄共通である。主要な獲物はアリで、樹葉や草間に留まり近づいた個体に糸を絡めて捕食する。本州から南西諸島にかけて生息し、海外では中国、韓国からの記録がある。

採集データ

1♂, 17-IX-2024, 下道灌漑～中道灌漑周辺, 小野展嗣採集。

コガネグモ科 *Araneidae* Clerck, 1757

コガタコガネグモ *Argiope minuta* (Karsch, 1879)

体長：雌6-12mm, 雄4-5mm。コガネグモに似るがより小型で雌腹部の斑紋もやや異なる。樹木の枝葉間に垂直円網を張りX字状の隠れ帯をつけることが多い(図8)。また危険を感じると網から落下する特殊な生態を持つ。実際に2024年の発見時には、近づくと地表から1m程度の低い位置に貼った網から即時草地に落下した。本種は生態や見た目の特徴から容易に同定可能なため発見時の採集は行わなかったが、生体を確認できたのは以下の2回のみであった。東アジア全域に生息し、国内分布域は本州から南西諸島である。

目視データ

1♀, 14-V-2021, 吹上苑厩花蔭亭周辺, 1♀, 17-IX-2024, 吹上御苑大宮御所正門周辺, 奥村賢一目視。

イエオニグモ *Neoscona nautica* (L. Koch, 1875) (図9)

体長：雌8-12mm, 雄4.5-5mm。雌はやや黒化し

た灰褐色，雄は淡褐色で腹部上面にはいずれも葉状斑を持つ。コガネグモ科の中では代表的な人為環境に適応した種で，建造物の軒下や街路灯，橋の欄干などに垂直円網を張る。世界中の温帯，熱帯から確認されており，国内では北海道以外の全都府県から記録がある。本種の発見はイトグモ，イエユレイグモが東御苑でのみ初発見された際の調査と同じ状況下であった。

採集データ

1♂，1-VII-2025，東御苑厩舎周辺，小野展嗣採集。

サガオニグモ *Plebs astridae* (Strand, 1917) (図10)
体長：雌6-10mm，雄5-6mm。樹木の低い位置の枝葉間に垂直円網を張る。網には隠れ帯をつける場合もある。外雌器の垂体が非常に長いのが特徴である。色彩，斑紋には個体によって変異が生じる。本州から九州まで分布し，中国，韓国，台湾からも記録がある。

採集データ

1♀，2-XI-2021，吹上苑厩観瀑亭周辺，奥村賢一採集。

アシナガグモ科 *Tetragnathidae* Menge, 1866

トガリアシナガグモ *Tetragnatha caudicula*

(Karsch, 1879) (図11)

体長：雌8-15mm，雄6-11mm。背甲から腹部にかけて黄褐色から白黄色の淡い色彩を持つ。腹部後端が糸状箇所を超えて長く伸び，先端が尖る点と同属の他種と異なる形態の特徴である。水田や草間に水平もしくは斜めの円網を張る。北海道から南西諸島まで分布し，中国，韓国からの記録もある。

採集データ

1juv.，15-XII-2022，中道灌漑周辺，小野展嗣採集。

ウズグモ科 *Uloboridae* Thorell, 1869

トウキョウウズグモ *Octonoba sinensis*

(Simon, 1880) (図12)

体長：雌雄4-6mm。体表は全体的に灰褐色で，背甲と腹部上面に筋状斑，および明瞭な黒色の輪紋を歩脚に有する。建造物周辺の暗所域に多く，白帯のついた円網を張る。本州，四国，九州の広範囲で確認されており，中国，韓国での記録もある。またアメリカへは人為移入しているため，国内産の個体も外来種の可能性が指摘されている

(小野&緒方，2018)。

採集データ

1♀，1-VII-2025，東御苑厩舎周辺，小野展嗣採集。

コタナグモ科 *Cicurinidae* F. O. Pickard-Cambridge, 1893

ナシジカレハグモ *Brommella punctosarsa* (Oi, 1957)

(図13)

体長：雌雄2mm前後。体表は全体が灰色もしくは灰褐色で6眼である。平地から低山地の森林，洞窟内，市街地の緑地など，多様な環境に生息する。臨床の落葉下，石の下，岩壁の隙間などに小さな天幕状の網を張る。本州から九州にかけて分布し，中国，韓国からの記録もある。目黒区の自然教育園や渋谷区の常盤松御用邸など都心部の複数箇所で見ついている（小野・新海2005；小野ほか，2019）。

採集データ

1juv.♀，6-IX-2022，6♀，15-XII-2022，1♀1♂，13-XII-2023，生物学研究所周辺，小野展嗣採集。

ワシグモ科 *Gnaphosidae* Banks, 1892

メキリグモ *Gnaphosa komprensensis*

(Bösenberg & Strand, 1906) (図14)

体長：雌6-14mm，雄5-8mm。体表は全体的に黒色だが，腹部には灰白色の細毛が密集しているため薄めに見える。地表徘徊性の種で，平地から低山地の森林，草原，耕作地，市街地の緑地などで見られる。北海道から南西諸島の北部まで分布し，海外からは中国，台湾，韓国，ロシア極東地域，ベトナムで記録がある。

採集データ

2♀，4-VII-2023，生物学研究所周辺，奥村賢一採集。

ムナキワシグモ *Cladothela unciinsignita*

(Bösenberg & Strand, 1906) (図15)

体長：雌6-8mm，雄4-7mm。体表は背面全体が黒色で，歩脚は先端付近を中心に褐色化する。平地から低山地の森林，草原に生息し，落葉下や地表を徘徊する。本州，四国，九州から確認されているが未発見の県も多い。韓国での記録もある。

採集データ



図11-16. 第Ⅲ期調査新規発見種. 11, トガリアシナガグモ *Tetragnatha caudicula*; 12, トウキョウウズグモ *Octonoba sinensis*; 13, ナシジカレハグモ *Brommella punctosparsa*; 14, メキリグモ *Gnaphosa kompirensis*; 15, ムナキワシグモ *Cladotela unciinsignita*; 16, クロチャケムリグモ *Zelotes asiaticus*

1♀, 16-V-2023, 吹上御苑花蔭亭周辺, 2juv.♀, 13-XII-2023, 1juv.♀, 14-V-2024, 吹上御苑観瀑亭周辺, 1juv.♂, 19-XI-2024, 生物学研究所周辺, 小野展嗣採集.

クロチャケムリグモ *Zelotes asiaticus* (Bösenberg & Strand, 1906) (図16)

体長：雌雄4-8mm. 体表全体が黒色で腹部は短毛に覆われる. 平地から低山地の森林, 草原に生息し, 落葉下や地表を徘徊する. 関東地方では市街地から若干離れた里山環境を中心に発見されている. 北海道から南西諸島まで分布し, 海外からは中国, 台湾, 韓国で記録がある.

採集データ

1♂, 14-V-2024, 2♀, 19-XI-2024, 吹上御苑観瀑亭周辺, 3♀, 14-V-2024, 生物学研究所周辺, 奥村賢一採集.

コマチグモ科 **Cheiracanthiidae Wagner, 1887**

アシナガコマチグモ *Cheiracanthium eutiitha* (Bösenberg & Strand, 1906) (図17)

体長：雌雄9-13mm. 背甲は黄褐色, 腹部は白黄色で斑紋はない. 雌雄ともに大型で, コマチグモ科の他種に比べ第1脚が非常に長いのが特徴である. 市街地も含め草原内で見られる. 他種同様にススキなどのイネ科植物の葉を巻いたりすることで巣を作る. 本州から南西諸島まで分布し, 台湾, 韓国でも確認されている.

採集データ

1♀, 4-VII-2023, 吹上御苑大宮御所周辺, 小野展嗣採集.



図17-20. 第Ⅲ期調査新規発見種. 17, アシナガコマチグモ *Cheiracanthium eutittha*; 18, ヒトリコゲチャハエトリ *Attulus avocator*; 19, アダンソンハエトリ *Hasarius adansoni*; 20, ナカヒラハエトリ *Sibianor kochiensis*

ハエトリグモ科 Salticidae Blackwall, 1841

ヒトリコゲチャハエトリ *Attulus avocator*
(O. Pickard-Cambridge, 1885) (図18)

体長：雌4-6mm, 雄3-4mm. 体表は全体的に灰褐色もしくは灰白色の毛で覆われ, 雄の頭胸部と腹部には暗色の対斑がある. 歩脚の各節にも環斑を持つ. 人家の外壁や河川敷の石の上で見られる. 中央アジア以東の大陸部で広範囲に分布し, 国内では北海道から九州において確認されている.

採集データ

1♂, 4-VIII-2023, 東御苑厩舎周辺, 小野展嗣採集.

アダンソンハエトリ *Hasarius adansoni*
(Audouin, 1826) (図19)

体長：雌6-9mm, 雄5-7mm. 雌雄互いの体色は異なり, 全体的には雄の方が黒色が強く, 雌は若干褐色味を帯びる. 雌の腹部には太めで灰褐色の縦状斑があるが, 雄では2-3対の白斑である. 雄の頭胸部後方には白い横帯があり, 腹部前方には雌雄いずれも横状斑を持つが, こちらの色彩も雄の方がより白い. 森林, 草原, 田畑, 建築物周辺といった人為環境も含めあらゆる場所に生息し, 屋内で見つかることも多々ある. 世界中に分布しているが原産地はアフリカとされている. 国内では北海道から南西諸島, さらに小笠原諸島にまで分布する. 皇居でも建造物の周辺を徘徊する個体が採集された.

採集データ

3juv. ♀, 4-VIII-2023, 東御苑厩舎周辺, 小野展嗣採集, 1♂, 23-XII-2024, 生物学研究所周辺,

奥村賢一採集.

ナカヒラハエトリ *Sibianor kochiensis*
(Bohdanowicz & Prószyński, 1987) (図20)

体長：雌雄3-4mm. 雌雄ともに頭胸部は黒色, 腹部は黒褐色で側面には不明瞭な帯状斑を有することがあるが, 体表全体では目立った斑紋はない. 森林の地表を徘徊する. 現時点では日本の固有種で本州, 四国, 九州で確認されている.

採集データ

1♀, 23-VII-2024, 生物学研究所周辺, 奥村賢一採集.

2. 新規発見の外来種 (図21-26)

ユウレイグモ科 Pholcidae C. L. Koch, 1850

オダカユウレイグモ *Crossopriza lyoni*
(Blackwall, 1867) (図21)

本種の国内初記録は1981年の愛知県であるが(八木沼, 1982), 初発見後それほど時を経ない段階で行われた調査でもすでに九州, 沖縄では広範囲に大量の個体が定着していることが確認されている(入江, 2001). 2024年末時点での発見は九州から東海地方を中心とした20都府県である(新海ら, 2024). 本種は初期の発見事例をもとに家畜用飼料などの運搬とともに移入, 分布拡大をしたとされるが, 定着が広範囲に及んでいる九州の熊本市や長崎市では民家車庫や橋桁下, 公衆トイレ内などからも発見されており, 特定の環境に限定されていないことがすでに判明している(入



図21-26. 新規発見の外来種。21, オダカユウレイグモ *Crossopriza lyoni*; 22, オダカユウレイグモの生息環境; 23, セアカゴケグモ *Latrodectus hasseltii*; 24, セアカゴケグモの発見場所; 25, シロホシヒメグモ *Steatoda grossa*; 26, マダラヒメグモ *Steatoda triangulosa*

江, 2001; 奥村, 2024b).

東京都では2016年の調布市での発見が初で、皇居での発見が2例目となる。その後2024年に練馬区でも発見された(市川, 2025a)。皇居内での発見場所は東御苑の厩舎および周辺の建築物の壁面や底下(図22)で、過去の報告通り家畜用資料などへの付着による移入の可能性があらためて確認できた。皇居内での馬用飼料の移入元を宮内庁職員に確認してもらったところ、北米とのことであった。ちなみに都内最初の事例である調布市の発見場所も厩舎であった(新海&谷川, 2016)。本種は通常調査していた吹上御苑内の建築物(大宮御所や花蔭亭)や生物学研究所では全く発見できず、セアカゴケグモ同様東御苑の厩舎付近のみに運搬荷物とともに持ち込まれたと考えられる。また本種はすでに定着している状況である。

採集データ

1♀1♂, 4-VIII-2023, 1♀, 1-VII-2025, 東御苑厩舎周辺, 奥村賢一採集, 1♀, 4-VIII-2023, 東

御苑厩舎周辺, 小野展嗣採集。

ヒメグモ科 Theridiidae Sundevall, 1833

セアカゴケグモ *Latrodectus hasseltii*
(Thorell, 1870) (図23)

本種は1995年に大阪府で初めて確認され、その後30年ほどでほぼ全国から発見された。2025年6月時点では青森県以外の46都道府県から確認されている(昆虫情報処理研究会, 2025)。発見当初の見解としては毒性が強く移入元とされるオーストラリアでは死亡事例もあるため、非常に危険な種として度々注目されてきたが、実際には当初騒がれたほど危険ではなく、これまでに日本でも多くの咬傷事例があるものの、死亡や重症化は報告されていない(清水ら, 2002)。そのため現在も引き続き注意喚起は促されているものの、発見されたとしてもそれほどインパクトのある事例にはならない状況に変化している。

東京都では都心部を中心とした12の自治体で確認されているが(昆虫情報処理研究会, 2025), 今回の皇居での発見は千代田区初であった。発見場所は東御苑内にある厩舎に隣接した箇所、通常発見される建築物周辺や側溝内ではなく、草地の中であった(図24)。発見者は東御苑内の施設に勤務している宮内庁の職員で、庭園課を通じて採集個体を手渡され本種の雌成体であることが確認された。繁殖による定着の有無を確認するため、周辺付近で後日詳細な調査をおこなった。結果として追加個体は全く確認されず定着の可能性はほぼないことが明らかになった。発見場所に隣接した厩舎は発見直前まで改修工事が行われており、外部から建築資材などが頻繁に搬入されていた。本種の分布拡大はこうした資材や車両に付着した形による事例が多いことはすでに判明しており(清水ら, 2014; 奥村, 2024a), 皇居での発見も同様の状況であったと思われる。ちなみに2025年8月8日にも同所において雌1個体が再発見されたとの連絡が宮内庁からあり、定着は無しとみなしていたこれまでの見解に一時的に疑問を呈した。しかし直後の新たな情報として、前日の8月7日に敷き藁がオーストラリアから現地に納品されていたことが判明した。そのため初発見時と同様に1個体のみが偶然搬入物に付着した状態で持ち込まれたと考えられ、引き続き定着の可能性は低いと思われる。本研究の通常の調査では西側の吹上御苑や生物学研究所、道灌濠を対象場所としていたため、東御苑で発見されたのはまさに偶然であった。

採集データ

1♀, 13-VII-2023, 1♀, 8-VIII-2025, 東御苑厩舎周辺, 宮内庁職員による採集。

シロホシヒメグモ *Steatoda grossa*

(C. L. Koch, 1838) (図25)

ユーラシア東部原産とされているが、タイプ産地はギリシャである。南北アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ、ハワイ、ニュージーランドなど世界的に広く分布を拡大している。国内の初記録は1962年の三重県(太田, 1963)で、現時点では北海道から九州まで報告があり、東京23区内では目黒区の自然教育園や渋谷区の学校敷地内、雑木林の樹洞でも発見事例がある(小野 *et al.*, 2019; 須黒, 2024; 市川, 2025b)。オオヒメグモ同様に人為環境での生息がメインで、屋内の壁面や窓枠

の隙間、側溝内、植木鉢の底などに不規則網を張る。今回の発見は建造物脇に設置された樹脂製の段差プレート裏面の隙間に造網している個体で、屋外ではあるが人為環境に適応していた。

本種の確認も1個体のみであるがセアカゴケグモほど注目される種ではないため、侵入後の時間もある程度経過している可能性がある。発見場所は過去に調査がなされなかった東御苑であることや、通常では見つけづらい場所に造網していたということも踏まえると定着の可能性は高い。

採集データ

1♀, 1-VII-2025, 東御苑厩舎周辺, 奥村賢一採集。

マダラヒメグモ *Steatoda triangulosa*

(Walckenaer, 1802) (図26)

本種は次項で述べるオダカユウレイグモと同じく1981年に愛知県で初めて発見された(八木沼, 1982)。またセアカゴケグモ同様、車両などによる物流に乗じて分布拡大がなされ(新海, 2006)、すでに北海道から九州にかけての広範囲で割と日常的に見られる種になっている。2024年時点での発見事例は33都道府県である(新海ら, 2024)。

東京都内では当博物館で過去に実施された明治神宮の調査でも発見されている(小野, 2013)。国内の生息環境は主に屋内や建築物周辺で、皇居でも生物学研究所内の建築物脇で発見された。採集は雌1個体のみで、発見場所の過去の調査では長らく未発見であったことや同地域で行ったその後の複数回の調査でも確認できなかったため定着については確定できない。

採集データ

1♀, 15-XII-2022, 生物学研究所周辺, 小野展嗣採集。

3. 目録

トタテグモ科 **Halonoproctidae Pocock, 1901**

キシノウエトタテグモ *Latouchia typica*

(Kishida, 1913)

巢の確認, 8-III-2022, 吹上御苑大宮御所手前付近。

エンマグモ科 **Segestriidae Simon, 1893**

ミヤグモ *Ariadna lateralis* (Karsch, 1881)

各所で多数確認。採集データ省略。

タマゴグモ科 *Ooonopidae* Simon, 1890

シャラクダニグモ *Opopaea syarakui*

(Komatsu, 1967)

1♀, 14-IX-2021, 4♂, 12-IX-2023, 中道灌漑
周辺, 小野展嗣採集, 1♂, 23-VII-2024, 2♀2♂,
17-IX-2024, 1♀, 19-XI-2021, 生物学研究所周
辺, 小野展嗣採集。

ヤマシログモ科 *Scytodidae* Blackwall, 1864

ユカタヤマシログモ *Scytodes thoracica*

(Latreille, 1802)

生物学研究所を中心に多数確認。採集データ省略。

ユウレイグモ科 *Pholcidae* C. L. Koch, 1850

オダカユウレイグモ *Crossopriza lyoni*

(Blackwall, 1867)

1♀1♂, 4-VIII-2023, 1♀, 1-VII-2025, 東御苑
厩舎周辺, 奥村賢一採集。2♀, 4-VIII-2023, 東
御苑厩舎周辺, 小野展嗣採集。

イエユウレイグモ *Pholcus phalangioides*

(Fuesslin, 1775)

1♂亜, 1-VII-2025, 東御苑厩舎周辺, 小野展嗣
採集。

イトグモ科 *Sicariidae* Keyserling, 1880

イトグモ *Loxosceles rufescens* (Dufour, 1820)

2♀, 1-VI-2025, 東御苑厩舎周辺, 奥村賢一採
集。

ヒメグモ科 *Theridiidae* Sundevall, 1833

シロカネイソウロウグモ *Argyrodes bonadea*

(Karsch, 1881)

1♂, 16-V-2023, 生物学研究所周辺, 小野展嗣
採集。1juv., 14-V-2024, 1juv., 19-XI-2024, 吹
上御苑観瀑亭周辺, 小野展嗣採集。

チリイソウロウグモ *Argyrodes kumadai*

(Chida & Tanikawa, 1999)

1juv. ♀, 2-XI-2021, 吹上御苑大宮御所周辺, 小
野展嗣採集。1juv. ♀, 14-V-2024, 吹上御苑観瀑
亭周辺, 小野展嗣採集。

オナガグモ *Ariamnes cylindrogaster* (Simon, 1888)

各所で多数確認。採集データ省略。

シモフリミジングモ *Dipoena punctisparsa*

(Yaginuma, 1967)

1♀, 17-V-2022, 中道灌漑周辺, 小野展嗣採集。

カレハヒメグモ *Enoplognatha abrupta*

(Karsch, 1879)

2juv. ♂, 15-XII-2022, 2juv. ♂, 13-XII-2023, 1
♀, 14-V-2024, 生物学研究所周辺, 小野展嗣採
集。2♀, 16-V-2023, 水越かのん採集。

ヒシガタグモ *Episinus affinis*

(Bösenberg & Strand, 1906)

1♀, 14-IX-2021, 吹上御苑観瀑亭周辺, 奥村賢
一採集。1juv. ♀, 12-IX-2023, 吹上御苑観瀑亭
周辺, 小野展嗣採集。

セアカゴケグモ *Latrodectus hasseltii*

(Thorell, 1870)

1♀, 13-VII-2023, 1♀, 8-VIII-2025, 東御苑厩
舎周辺, 宮内庁職員採集。

フタオイソウロウグモ *Neospintharus fur*

(Bösenberg & Strand, 1906)

1juv. ♀3juv. ♂, 2-XI-2021, 吹上御苑大宮御所周
辺, 1juv. ♀2juv. ♂, 15-XII-2022, 3juv. ♀1juv. ♂,
13-XII-2023, 生物学研究所周辺, 2juv. ♀, 13-
XII-2023, 吹上御苑観瀑亭周辺, 小野展嗣採集。

ニホンヒメグモ *Nihonhimea japonica*

(Bösenberg & Strand, 1906)

1juv. ♀, 4-VII-2023, 吹上御苑大宮御所周辺,
奥村賢一採集。1♀1juv. ♂, 吹上御苑大宮御所周
辺, 1juv. ♀, 4-VII-2023, 生物学研究所周辺, 小
野展嗣採集。2♀1♂, 4-VIII-2023, 東御苑厩舎
周辺, 奥村賢一採集。

ハイイロヒメグモ *Paidiscura subpallens*
(Bösenberg & Strand, 1906)

1♂, 17-V-2022, 吹上御苑観瀑亭周辺, 1juv. ♂,
16-V-2023, 吹上御苑花蔭亭周辺, 小野展嗣採集.

ツリガネヒメグモ *Parasteatoda angulithorax*
(Bösenberg & Strand, 1906)

1♀, 8-III-2022, 吹上御苑観瀑亭周辺, 1♀, 12-
VII-2022, 生物学研究所周辺, 奥村賢一採集.

カグヤヒメグモ *Parasteatoda culicivora*
(Bösenberg & Strand, 1906)

各所で多数確認. 採集データ省略.

オオヒメグモ *Parasteatoda tepidariorum*
(C. L. Koch, 1841)

各所で多数確認. 採集データ省略.

キベリミジングモ *Phycosoma flavomarginatum*
(Bösenberg & Strand, 1906)

1♂, 17-IX-2024, 下道灌漑～中道灌漑周辺, 小
野展嗣採集.

カニミジングモ *Phycosoma mustelinum*
(Simon, 1889)

各所で多数確認. 採集データ省略.

ムナボシヒメグモ *Platnickina sterninotata*
(Bösenberg & Strand, 1906)

各所で多数確認. 採集データ省略.

シロホシヒメグモ *Steatoda grossa*
(C. L. Koch, 1838)

1♀, 1-VI-2025, 東御苑厩舎周辺, 奥村賢一採集.

マダラヒメグモ *Steatoda triangulosa*
(Walckenaer, 1802)

1♀, 15-XII-2022, 2♀, 17-IX-2024, 生物学研
究所周辺, 小野展嗣採集.

スネグロオチバヒメグモ *Stemmops nipponicus*
(Yaginuma, 1969)

各所で多数確認. 採集データ省略.

コアカクロミジングモ *Yaginumena mutilata*
(Bösenberg & Strand, 1906)

3juv., 14-IX-2021, 3juv. ♀, 13-XII-2023, 下道
灌漑～中道灌漑周辺, 1♀, 17-IX-2024, 生物学
研究所周辺, 小野展嗣採集.

コガネグモ科 **Araneidae Clerck, 1757**

ビジョオニグモ *Bijoaraneus komachi*
(Tanikawa, Yamasaki & Petcharad, 2021)

2juv. ♀, 12-VII-2022, 吹上御苑大宮御所周辺,
1juv., 4-VII-2023, 生物学研究所周辺, 小野展嗣
採集.

アオオニグモ *Aoaraneus pentagrammicus*
(Karsch, 1879)

1juv. ♂, 2-XI-2021, 吹上御苑大宮御所周辺, 小
野展嗣採集.

カラオニグモ *Araneus tsurusakii*
(Tanikawa, 2001)

1♀, 17-V-2022, 下道灌漑～中道灌漑周辺, 1♂,
17-V-2022, 1juv. ♂, 15-XII-2022, 1juv., 13-
XII-2023, 1juv., 14-V-2024, 吹上御苑観瀑亭周
辺, 小野展嗣採集.

オニグモ *Araneus ventricosus* (L. Koch, 1878)

1♀, 12-VII-2022, 生物学研究所周辺, 奥村賢一
採集.

コガネグモ *Argiope amoena* (L. Koch, 1878)

1♀, 4-VII-2023, 下道灌漑～中道灌漑周辺, 奥
村賢一採集.

ナガコガネグモ *Argiope bruennichi*
(Scopoli, 1772)

1♀, 14-IX-2021, 下道灌漑～中道灌漑周辺, 水
越かのみ採集, 1juv., 4-VII-2023, 吹上御苑大宮
御所周辺, 1♀, 12-IX-2023, 1juv., 14-V-2024,
吹上御苑観瀑亭周辺, 小野展嗣採集.

コガタコガネグモ *Argiope minuta* (Karsch, 1879)

1♀, 14-V-2021, 1♀, 17-IX-2024, 吹上御苑大
宮御所周辺, 奥村賢一目視.

ギンメッキゴミグモ *Cyclosa argenteoalba*
(Bösenberg & Strand, 1906)
各所で多数確認。採集データ省略。

ゴミグモ *Cyclosa octotuberculata* (Karsch, 1879)
1♀, 14-IX-2021, 吹上御苑観瀑亭周辺, 奥村賢一採集, 1juv., 2-XI-2021, 吹上御苑大宮御所周辺, 1juv., 6-IX-2022, 吹上御苑観瀑亭周辺, 1juv., 15-XII-2022, 生物学研究所周辺, 小野展嗣採集。

マルゴミグモ *Cyclosa vallata* (Keyserling, 1886)
2♀, 17-V-2022, 宮内庁庁舎～下道灌濠, 奥村賢一採集, 1juv., 12-VII-2022, 吹上御苑大宮御所周辺, 1juv., 12-VII-2022, 生物学研究所周辺, 小野展嗣採集。

オオトリノフンダマシ *Cyrtarachne akirai*
(Tanikawa, 2013)
1juv., 15-XII-2022, 吹上御苑観瀑亭周辺, 小野展嗣採集。

シロスジシヨウジヨウグモ *Hypsosinga sanguinea*
(C. L. Koch, 1844)
1juv., 12-VII-2022, 吹上御苑大宮御所周辺, 1♂, 16-V-2023, 吹上御苑花蔭亭周辺, 1juv., 4-VII-2023, 生物学研究所周辺, 1juv., 19-XI-2024, 吹上御苑観瀑亭周辺, 小野展嗣採集。

イエオニグモ *Neoscona nautica* (L. Koch, 1875)
1♂, 1-VII-2025, 東御苑厩舎周辺, 小野展嗣採集。

ヤマシロオニグモ *Neoscona scylla* (Karsch, 1879)
1juv. ♀, 17-V-2022, 下道灌濠～中道灌濠周辺, 1juv., 4-VII-2023, 吹上御苑大宮御所周辺, 小野展嗣採集。

サガオニグモ *Plebs astridae* (Strand, 1917)
1♀, 2-XI-2021, 吹上御苑観瀑亭周辺, 奥村賢一採集。

ワキグロサツマノミダマシ *Neoscona mellottei*
(Simon, 1895)
1juv. ♀, 1juv. ♂, 23-VII-2024, 吹上御苑観瀑亭周辺, 小野展嗣採集。

サツマノミダマシ *Neoscona scylloides*
(Bösenberg & Strand, 1906)
各所で多数確認。採集データ省略。

ゲホウグモ *Polys illepidus* (C. L. Koch, 1843)
1juv., 15-XI-2022, 吹上御苑観瀑亭周辺, 小野展嗣採集。

ジョロウグモ *Trichonephila clavata* (L. Koch, 1878)
各所で多数確認。採集データ省略。

センショウグモ科 **Mimetidae Simon, 1881**

センショウグモ *Ero japonica*
(Bösenberg & Strand, 1906)
14-IX-2021, 2-XI-2021, 吹上御苑観瀑亭周辺, 小野展嗣目視

アシナガグモ科 **Tetragnathidae Menge, 1866**

オオシロカネグモ *Leucauge celebesiana*
(Walckenaer, 1842)
各所で多数確認。採集データ省略。

コシロカネグモ *Leucauge subblanda*
(Bösenberg & Strand, 1906)
各所で多数確認。採集データ省略。

キララシロカネグモ *Leucauge subgemmea*
(Bösenberg & Strand, 1906)
1♂, 1juv. ♀, 17-V-2022, 吹上御苑観瀑亭周辺, 1♀, 4-VII-2023, 1♀1♂, 14-V-2024, 下道灌濠～中道灌濠周辺, 小野展嗣採集。

メガネドヨウグモ *Metleucauge yunohamensis*
(Bösenberg & Strand, 1906)
1juv., 15-XII-2022, 吹上御苑観瀑亭周辺, 小野展嗣採集。

トガリアシナガグモ *Tetragnatha caudicula*
(Karsch, 1879)
1juv., 15-XII-2022, 下道灌濠～中道灌濠周辺, 小野展嗣採集。

ヤサガタアシナガグモ *Tetragnatha keyserlingi*
(Simon, 1890)

各所で多数確認。採集データ省略。

アシナガグモ *Tetragnatha praedonia*
(L. Koch, 1878)

各所で多数確認。採集データ省略。

ウロコアシナガグモ *Tetragnatha squamata*
(Karsch, 1879)

1juv. ♂, 17-V-2022, 1juv. ♀, 15-XII-2022, 下道灌濠～中道灌濠周辺, 1juv. ♀, 16-V-2023, 吹上御苑観瀑亭周辺, 5juv. ♀, 19-XI-2024, 生物学研究所周辺, 小野展嗣採集。

サラグモ科 *Linyphiidae* Blackwall, 1859

コサラグモ *Aprifrontalia mascula* (Karsch, 1879)

1♀, 4-VII-2023, 生物学研究所周辺, 小野展嗣採集, 2♀, 14-V-2024, 生物学研究所周辺, 奥村賢一採集。

ハラジロムナキグモ *Diplocephaloides saganus*
(Bösenberg & Strand, 1906)

1♀, 17-V-2022, 吹上御苑観瀑亭周辺, 水越かのん採集, 1♀, 17-V-2022, 1♂, 14-V-2024, 吹上御苑観瀑亭周辺, 1♀, 16-V-2023, 下道灌濠～中道灌濠周辺, 小野展嗣採集。

ノコギリヒザグモ *Erigone prominens*
(Bösenberg & Strand, 1906)

1♀, 19-XI-2024, 生物学研究所周辺, 小野展嗣採集。

タテヤマテナガグモ *Microbathyphantes tateyamaensis*
(Oi, 1960)

1♂, 17-V-2022, 下道灌濠～中道灌濠周辺, 水越かのん採集, 2juv. ♂, 6-IX-2022, 1♂, 15-XII-2022, 1juv. ♀, 13-XII-2023, 吹上御苑観瀑亭周辺, 小野展嗣採集。

チビアカサラグモ *Nematogmus sanguinolentus*
(Walckenaer, 1842)

各所で多数確認。採集データ省略。

ヘリジロサラグモ *Neriere oidedicata* van
(Helsdingen, 1969)

1♀, 17-V-2022, 吹上御苑観瀑亭周辺, 水越かのん採集, 2♂, 12-VII-2022, 1♂, 4-VII-2023, 吹上御苑大宮御所周辺, 奥村賢一採集, 1♂, 23-VII-2024, 吹上御苑観瀑亭周辺, 小野展嗣採集。

カントウケシグモ *Nippononeta kantonis*
(Ono & H. Saito, 2001)

2♀, 16-V-2023, 吹上御苑観瀑亭周辺, 水越かのん採集, 2♀, 4-VII-2023, 吹上御苑大宮御所周辺, 小野展嗣採集。

イマダテングヌカグモ *Oia imadatei* (Oi, 1964)

1♀, 16-V-2023, 吹上御苑観瀑亭周辺, 小野展嗣採集。

フタエツノヌカグモ *Paikiniana keikoeae*
(H. Saito, 1988)

2juv. ♂, 6-IX-2022, 生物学研究所周辺, 小野展嗣採集。

アトグロアカムネグモ *Ummeliata feminea*
(Bösenberg & Strand, 1906)

1♂, 17-V-2022, 下道灌濠～中道灌濠周辺, 小野展嗣採集, 1♂, 14-V-2024, 生物学研究所周辺, 奥村賢一採集。

コデーニツツサラグモ *Doenitzius pruvus*
(Oi, 1960)

1♀, 14-V-2024, 1juv. ♀, 23-VII-2024, 吹上御苑観瀑亭周辺, 小野展嗣採集。

チリグモ科 *Oecobiidae* Blackwall, 1862

チリグモ *Oecobius navus* (Blackwall, 1859)

1juv. ♀, 2-XI-2021, 吹上御苑大宮御所周辺, 1juv. ♀, 17-IX-2024, 生物学研究所周辺, 小野展嗣採集。

ヒラタグモ *Uroctea compactilis* (L. Koch, 1878)

各所で多数確認。採集データ省略。

ウズグモ科 Uloboridae Thorell, 1869

マネキグモ *Miagrammopes orientalis*
(Bösenberg & Strand, 1906)

1juv., 6-IX-2022, 生物学研究所周辺, 2juv., 15-XII-2022, 1juv., 23-VII-2024, 吹上御苑観瀑亭周辺, 1♂, 16-V-2023, 吹上御苑花蔭亭周辺, 1juv., 4-VII-2023, 吹上御苑大宮御所周辺, 小野展嗣採集.

トウキョウウズグモ *Octonoba sinensis* (Simon, 1880)
1♀, 1-VII-2025, 東御苑厩舎周辺, 小野展嗣採集.

カタハリウズグモ *Octonoba sybotides*
(Bösenberg & Strand, 1906)
各所で多数確認. 採集データ省略.

タナグモ科 Agelenidae C. L. Koch, 1837

クサグモ *Agelena silvatica* (Oligier, 1983)
各所で多数確認. 採集データ省略.

コクサグモ *Allagelena opulenta* (L. Koch, 1878)
各所で多数確認. 採集データ省略.

ムサシヤチグモ *Coelotes musashiensis*
(Nishikawa, 1989)
1♂, 2-XI-2021, 吹上御苑観瀑亭周辺, 奥村賢一採集.

シモフリヤチグモ *Iwogumoa insidiosa*
(L. Koch, 1878)
各所で多数確認. 採集データ省略.

ナミハグモ科 Cybaeidae Banks, 1892

ムロテナミハグモ *Cybaeus mellottei*
(Simon, 1886)
1♀, 2-XI-2021, 吹上御苑大宮御所周辺, 1♂, 19-XI-2024, 生物学研究所周辺, 奥村賢一採集.

カチドキナミハグモ *Cybaeus nipponicus*
(Uyemura, 1938)
2♀, 2-XI-2021, 2♀, 8-III-2022, 2♀1♂, 15-XII-2022, 吹上御苑観瀑亭周辺, 奥村賢一採集, 1♀1♂1juv.♂, 2-XI-2021, 小野展嗣採集.

ハタケグモ科 Hahniidae Bertkau, 1878

ハタケグモ *Hahnica corticicola*
(Bösenberg & Strand, 1906)

1juv. ♀, 13-XII-2023, 生物学研究所周辺, 小野展嗣採集.

コタナグモ科 Cicurinae F. O. Pickard-Cambridge, 1893

ナシジカレハグモ *Brommella punctosparsa*
(Oi, 1957)

1juv.♀, 6-IX-2022, 6♀, 15-XII-2022, 1♀1♂, 13-XII-2023, 生物学研究所周辺, 小野展嗣採集.

コタナグモ *Cicurina japonica* (Simon, 1886)
1♀, 17-V-2022, 1♂, 15-XII-2022, 吹上御苑観瀑亭周辺, 3♀1♂, 15-XII-2022, 生物学研究所周辺, 奥村賢一採集, 1♀, 15-XII-2022, 吹上御苑観瀑亭周辺, 小野展嗣採集.

ハグモ科 Dictynidae O. Pickard-Cambridge, 1871

ネコハグモ *Dictyna felis* (Bösenberg & Strand, 1906)
4juv.♀, 4-VIII-2023, 東御苑厩舎周辺, 小野展嗣採集.

カレハグモ科 Lathyidae Cala-Riquelme, Montana, Crews & Esposito, 2025

カレハグモ *Lathys annulata*
(Bösenberg & Strand, 1906)

3juv.♀, 19-XI-2024, 生物学研究所周辺, 小野展嗣採集.

ササグモ科 Oxyopidae Thorell, 1869

ササグモ *Oxyopes sertatus* (L. Koch, 1878)
各所で多数確認. 採集データ省略.

ハシリグモ科 Dolomedidae Simon, 1876

イオウイロハシリグモ *Dolomedes sulfureus*
(L. Koch, 1878)

吹上御苑観瀑亭周辺を中心に多数確認. 採集データ省略.

コモリグモ科 Lycosidae Sundevall, 1833

ヒノマルコモリグモ *Arctosa ipsa* (Karsch, 1879)
1juv. ♀, 14-IX-2021, 下道灌濠～中道灌濠周辺,
小野展嗣採集, 1♂, 4-VII-2023, 吹上御苑大宮
御所周辺, 奥村賢一採集.

ハラクロコモリグモ *Lycosa coelestis*
(L. Koch, 1878)
各所で多数確認. 採集データ省略.

ウヅキコモリグモ *Pardosa astrigera*
(L. Koch, 1878)
1♂, 12-VII-2022, 生物学研究所周辺, 奥村賢
一採集, 1♀1♂, 4-VIII-2023, 東御苑厩舎周辺,
小野展嗣採集.

ハリゲコモリグモ *Pardosa laura* (Karsch, 1879)
各所で多数確認. 採集データ省略.

チビコモリグモ *Piratula procurvus*
(Bösenberg & Strand, 1906)
各所で多数確認. 採集データ省略.

カニグモ科 Thomisidae Sundevall, 1833

キハダカニグモ *Bassaniana decorata*
(Karsch, 1879)
1♀, 12-VII-2022, 生物学研究所周辺, 奥村賢一
採集.

コカニグモ *Coriarachne fulvipes* (Karsch, 1879)
1juv. ♂, 4-VII-2023, 生物学研究所周辺, 小野展
嗣採集.

コハナグモ *Diaea subdola*
(O. Pickard-Cambridge, 1885)
各所で多数確認. 採集データ省略.

クマダハナグモ *Ebelingia kumadai* (Ono, 1985)
各所で多数確認. 採集データ省略.

ガザミグモ *Pistius undulatus* (Karsch, 1879)
1juv. ♀, 23-VII-2024, 吹上御苑観瀑亭周辺, 小
野展嗣採集.

ハナグモ *Ebrechtella tricuspadata* (Fabricius, 1775)
1juv. ♀, 6-IX-2022, 生物学研究所周辺, 小野展
嗣採集.

マツモトオチバカニグモ *Ozyptila matsumotoi*
(Ono, 1988)
1♂, 17-V-2022, 下道灌濠～中道灌濠周辺, 水
越かのみ採集, 1♀1juv. ♀1juv. ♂, 6-IX-2022, 3
♀, 15-XII-2022, 吹上御苑観瀑亭周辺, 小野展
嗣採集.

ニッポンオチバカニグモ *Ozyptila nipponica*
(Ono, 1985)
1♀1juv. ♀, 6-IX-2022, 吹上御苑観瀑亭周辺,
1juv. ♂, 4-VII-2023, 1♀, 12-IX-2023, 下道灌
濠～中道灌濠周辺, 1♂1♀, 17-IX-2023, 生
物学研究所周辺, 小野展嗣採集.

ワカバグモ *Oxytate striatipes* (L. Koch, 1878)
各所で多数確認. 採集データ省略.

アズチグモ *Thomisus labefactus* (Karsch, 1881)
各所で多数確認. 採集データ省略.

セマルトラフカニグモ *Tmarus rimosus*
(Paik, 1973)
1juv. ♀, 17-V-2022, 吹上御苑観瀑亭周辺, 小野
展嗣採集.

ヤミイロカニグモ *Xysticus croceus* (Fox, 1937)
各所で多数確認. 採集データ省略.

フクログモ科 Clubionidae Wagner, 1887

マダラフクログモ *Clubiona deletrix*
(O. Pickard-Cambridge, 1885)
各所で多数確認. 採集データ省略.

ハマキフクログモ *Clubiona japonicola*
(Bösenberg & Strand, 1906)
1juv. ♂, 17-V-2022, 下道灌濠～中道灌濠周辺,
小野展嗣採集.

ヤギヌマフクログモ *Clubiona yaginumai*
(Hayashi, 1989)
1juv. ♀, 15-XII-2022, 吹上御苑観瀑亭周辺, 小

野展嗣採集.

ネコグモ科 *Trachelidae* Simon, 1897

オトヒメグモ *Orthobula crucifera*

(Bösenberg & Strand, 1906)

1♀1♂, 14-IX-2021, 1♀1♂, 6-IX-2022, 1♀,
19-XII-2024, 下道灌濠～中道灌濠周辺, 1♀,
16-V-2023, 吹上御苑観瀑亭周辺, 17-IX-2024,
生物学研究所周辺, 小野展嗣採集.

ネコグモ *Trachelas japonicus*

(Bösenberg & Strand, 1906)

各所で多数確認. 採集データ省略.

ウラシマグモ科 *Phrurolithidae* Banks, 1892

コムラウラシマグモ *Otachilia komurai*

(Yaginuma, 1952)

各所で多数確認. 採集データ省略.

ウラシマグモ *Phrurolithus nipponicus*

(Kishida, 1914)

各所で多数確認. 採集データ省略.

ヤバネウラシマグモ *Pennalithus pennatus*

(Yaginuma, 1967)

各所で多数確認. 採集データ省略.

ワシグモ科 *Gnaphosidae* Banks, 1892

ムナキワシグモ *Cladothela unciinsignita*

(Bösenberg & Strand, 1906)

2juv. ♀, 13-XII-2023, 1juv. ♀, 14-V-2024, 吹上
御苑観瀑亭周辺, 1juv. ♂, 19-XI-2024, 生物学
研究所周辺, 小野展嗣採集.

メキリグモ *Gnaphosa kompirensis*

(Bösenberg & Strand, 1906)

1♂, 4-VII-2023, 生物学研究所周辺, 奥村賢一
採集.

クロチャケムリグモ *Zelotes asiaticus*

(Bösenberg & Strand, 1906)

1♂, 14-V-2024, 2♀, 19-XI-2024, 吹上御苑観
瀑亭周辺, 3♀, 14-V-2024, 生物学研究所周辺,

奥村賢一採集.

ツチフクログモ科 *Miturgidae* Simon, 1886

イタチグモ *Prochora praticola*

(Bösenberg & Strand, 1906)

各所で多数確認. 採集データ省略.

コマチグモ科 *Cheiracanthiidae* Wagner, 1887

アシナガコマチグモ *Cheiracanthium eutittha*

(Bösenberg & Strand, 1906)

1♀, 4-VII-2023, 吹上御苑大宮御所周辺, 小野
展嗣採集.

ヤマトコマチグモ *Cheiracanthium lascivum*

(Karsch, 1879)

1juv., 6-IX-2022, 1juv. ♀, 15-XII-2022, 吹上御
苑観瀑亭周辺, 小野展嗣採集.

シボグモ科 *Ctenidae* Keyserling, 1877

シボグモ *Anahita fauna* (Karsch, 1879)

1juv. ♀, 14-V-2024, 下道灌濠～中道灌濠周辺,
奥村賢一採集.

エビグモ科 *Philodromidae* Thorell, 1870

キンイロエビグモ *Philodromus auricomus*

(L. Koch, 1878)

各所で多数確認. 採集データ省略.

キハダエビグモ *Philodromus spintarsis*

(Simon, 1895)

1juv., 8-III-2022, 吹上御苑大宮御所周辺, 1♂,
16-V-2023, 吹上御苑観瀑亭周辺, 1juv. ♀ 1juv. ♂,
13-XII-2023, 生物学研究所周辺, 小野展嗣採集,
1♂, 14-V-2024, 生物学研究所周辺, 水越か
のん採集.

アサヒエビグモ *Philodromus subaureolus*

(Bösenberg & Strand, 1906)

5juv., 8-III-2022, 吹上御苑大宮御所周辺, 小野
展嗣採集.

シヤコグモ *Tibellus japonicus* (Efimik, 1999)
各所で多数確認。採集データ省略。

ヤマトヤドカリグモ *Thanatus nipponicus*
(Yaginuma, 1969)
2juv. ♀, 12-IX-2023, 1juv., 17-IX-2024, 生物学
研究所周辺, 小野展嗣採集。

ハエトリグモ科 Salticidae Blackwall, 1841

ヒトリコゲチャハエトリ *Attulus avocator*
(O. Pickard-Cambridge, 1885)
1♂, 4-VIII-2023, 東御苑厩舎周辺, 小野展嗣採
集。

ネコハエトリ *Carrhotus xanthogramma*
(Latreille, 1819)
各所で多数確認。採集データ省略。

マミジロハエトリ *Evarcha albaria* (L. Koch, 1878)
各所で多数確認。採集データ省略。

ウデブトハエトリ *Harmochirus insulanus*
(Kishida, 1914)
1♀1♂, 14-IX-2021, 下道灌漑～中道灌漑周辺,
水越かのん採集, 1♂, 12-IX-2023, 吹上御苑大
宮御所周辺, 奥村賢一採集, 1♂, 12-IX-2023,
下道灌漑～中道灌漑周辺, 1♀, 23-VII-2024, 吹
上御苑観瀑亭周辺, 1juv., 23-VII-2024, 生物学
研究所周辺, 小野展嗣採集。

アダンソンハエトリ *Hasarius adansoni* (Audouin, 1826)
3juv. ♀, 4-VIII-2023, 東御苑厩舎周辺, 小野展
嗣採集, 1♂, 23-VII-2024, 生物学研究所周辺,
奥村賢一採集。

コジャバラハエトリ *Helicicus cylindratus*
(Karsch, 1879)
1juv. ♂, 17-IX-2024, 下道灌漑～中道灌漑周辺,
小野展嗣採集。

エキスハエトリ *Laufeia aenea* (Simon, 1889)
1juv. ♂, 16-V-2023, 吹上御苑花蔭亭周辺, 1
♀2♂, 吹上御苑大宮御所周辺, 1juv. ♂, 14-
V-2024, 吹上御苑観瀑亭周辺, 小野展嗣採集。

カラスハエトリ *Rhene atrata* (Karsch, 1881)
1juv., 6-IX-2022, 生物学研究所周辺, 小野展嗣
採集。

ヨダンハエトリ *Marpissa pulla* (Karsch, 1879)
1♀, 16-V-2023, 1juv., 23-VII-2024, 吹上御苑
観瀑亭周辺, 1♂, 14-V-2024, 下道灌漑～中道
灌漑周辺, 小野展嗣採集。

シラヒゲハエトリ *Menemerus brachygnathus*
(Thorell, 1877)
各所で多数確認。採集データ省略。

ヤサアリグモ *Myrmarachne inermichelis*
(Bösenberg & Strand, 1906)
1♂, 17-V-2022, 1juv., 16-V-2023, 吹上御苑観
瀑亭周辺, 1juv., 12-VII-2022, 吹上御苑大宮御
所周辺, 1juv. ♂, 6-IX-2022, 下道灌漑～中道灌
漑周辺, 小野展嗣採集。

アリグモ *Myrmarachne japonica* (Karsch, 1879)
1juv. ♀, 4-VIII-2023, 東御苑厩舎周辺, 1juv.,
13-XII-2023, 下道灌漑～中道灌漑周辺, 小野展
嗣採集, 1♂, 14-V-2024, 吹上御苑大宮御所周
辺, 奥村賢一採集。

チャイロアサヒハエトリ *Phintella abnormis*
(Bösenberg & Strand, 1906)
各所で多数確認。採集データ省略。

デーニッツハエトリ *Plexippoides doenitzi*
(Karsch, 1879)
各所で多数確認。採集データ省略。

ミスジハエトリ *Plexippus setipes* (Karsch, 1879)
1♂, 6-IX-2022, 2♀, 4-VII-2023, 1♂, 12-
IX-2023, 生物学研究所周辺, 奥村賢一採集。

ナカヒラハエトリ *Sibianor kochiensis*
(Bohdanowicz & Prószyński, 1987)
1♀, 23-VII-2024, 生物学研究所周辺, 奥村賢一
採集。

アオオビハエトリ *Siler cupreus* (Simon, 1889)
1juv., 14-IX-2021, 下道灌漑～中道灌漑周辺,
水越かのん採集, 1juv. ♀, 17-V-2022, 下道灌漑



図27-28. 巣のみ確認の事例. 27, キシノウエトタテグモの巣穴; 28, ジグモの管状住居

～中道灌濠周辺, 小野展嗣採集.

計138種 (例外事例として次項のキシノウエトタテグモも含む)

4. 過去の調査で確認されたが今回発見できなかった種の参考情報

トタテグモ科 *Halonoproctidae* Pocock, 1901

キシノウエトタテグモ *Latouchia typica*
(Kishida, 1913)

本種は民家の庭や墓地, 公園といった比較的市街地化した場所で見られることが多く, やや傾斜のある土壤中に管状の巣穴を掘り, 入り口に片開きの扉をつける. そのため宅地の造成や, 道路脇の整備といった工事により生息地が失われる状況が生じやすいため, 環境省版レッドリスト2020および東京都レッドリスト (本土部) 2020の準絶滅危惧種 (NT) に選定されている.

本種は目録箇所に入れているが, 実際には生体を確認できていない. ただ本種が土壤に穴を掘り入り口に扉構造まで付けた巣は特徴的で, 巣のみでも本種の存在が明確であることは否定されない. 今回の調査の第3回目となる2022年3月8日に過去の発見場所を探したところ複数箇所本種の巣を発見できた (図27). 雌個体は数年間生き続けるとされているため, 巣穴を掘り起こしたが生体の存在を確認することはできなかった. そこでその後の調査でも同地において度々探したが, 生体に加え巣まで見つけることはできない状況に変

わっていた. 同地での生息はおそらく無くなったものと考えられるが, 原因は不明である. 発見時の巣穴はそれほど劣化状態ではなく, 前年頃は生息していたはずのためリストに加えることとした. 本種は都心部の人家の庭や公園の芝生といった場所での発見事例も多々あり, 人為環境にかなり馴染んだ種である. 今回生体が発見できなかった要因も含め, 皇居内での生息がどのような状況なのか非常に興味深い種である.

ジグモ科 *Atypidae* Thorell, 1870

ジグモ *Atypus karschii* (Dönitz, 1887)

沖縄を除く日本の全都道府県に生息しており, 平地から低山地の森林, 市街地の公園や緑地, 人家の庭といったあらゆる環境で見られる. 東京都でも多数の記録があるが伊豆諸島ではあまり確認されておらず, 東京都レッドリスト (島嶼部) 2011の情報不足種 (DD) に選定されている.

地中から伸びる管状住居の網部分が樹木の根元や建造物外壁の下方面, 垣根などで見られるため発見もしやすく, 一般的によく知られた普通種である. 皇居における過去の発見事例はモニタリング調査の時のみで第Ⅱ期調査でも確認されていない. 第Ⅲ期の今回も唯一の発見場所である生物学研究所の建築物周辺で毎回探したところ, 2024年5月14日にかなり小型の巣と思われる構造物が見つかった (図28). 大きさから判断して明らかに成体のものではなく, 正確な確認にはもう少しばらくの時間が必要なことからそのまま残すこととした.

ところが同年7月23日の調査の際にはこれらの構造物が発見場所から一切なくなっていた。前述のキシノウエトタテグモ同様巣の確認という形であるが、確実な生息とするには情報不足のため、本種はリストに加えていない。すなわち第Ⅱ期同様今回も発見はできなかった形である。状況から鑑みて、他の繁殖域からのバルーニングによって移動した個体があるまま成長を続けようとしたが環境が合わなかったため死滅したということも考えられる。モニタリング調査の際に発見されたのは運良く生き延びた個体で、まさに偶然であったのかもしれない。

コガネグモ科 Araneidae Clerck, 1757

スズミグモ *Cyrtophora ikomosanensis* (Bösenberg & Strand, 1906)

森林や公園の樹間にドーム状の絹網を張り、生体は上部に留まる。上下にも多数の糸を不規則に張る。絹網に粘性はないが目の細かい構造で不規則網と共に獲物が絡まりやすいため捕獲可能となる。本種は元々南方系のクモであるが、北関東や新潟県でも少し前に確認され現在北上傾向にあることが判明している(新海・谷川, 2015, 2022)。都心部でも多くの発見記録があり、皇居では第Ⅱ期調査において吹上御苑と中道灌漑の特定地域から多数の個体が発見されているが、年によって個体数に差が生じている。第Ⅲ期調査では全く発見することはできなかった。本種は第Ⅱ期調査のタイミングに合わせた形でバルーニング個体がたまたま生息しやすい皇居内に侵入したため過去に発見できた可能性がある。本種の生息環境に適合した皇居の敷地はかなり広いと、一旦入り込めばある程度生息を継続することが可能とも思われるが、今回未発見となった理由は不明である。

本種は温暖化が生物の分布にどのような影響を及ぼすかを知る上での情報として代表的なクモである。

ハグモ科 Dictynidae O. Pickard-Cambridge, 1871

タイリクカレハグモ *Qiyunia lehtineni* (Song & Xu, 1989)

本種は第Ⅱ期の調査で大量に発見され、国内での初記録でもあった。しかし今季調査や第Ⅰ期調査、モニタリング調査では全く確認されず特殊な

状況といえる。第Ⅱ期調査で得られた個体はクモ類を対象とした本来の調査とは別に行われた土壤動物調査によるもので、調査者や調査方法が異なっていたことが発見の要因とも考えられる。一方第Ⅱ期調査で得られなかったカレハグモは今季再び発見された。第Ⅱ期調査の結果報告では、同様の環境に生息するこれら2種が入れ替わった感があるとの記述があるが、今季も含めたこれまでの調査結果を踏まえると、おそらく両種ともそれなりに生息は継続していると考えられる。また本種の本原記載地は中国の内陸部であることから、国内産の個体は外来種である可能性も報告に記載されている。本種は第Ⅱ期調査での初発見以降にも皇居と同じく都心部に位置する渋谷区の学校敷地内での発見事例がある(須黒, 2024)。さらに現時点では東京都以外に神奈川県、千葉県内のいずれも市街地的な環境で発見されている(池田, 2015; 加藤, 2019; 市川ほか, 2025)。その一方で上記の3都県以外では全く発見事例がない。そのため過去の報告にあるとおり、大陸からの移入種である可能性がより高いことが明らかになりつつある。

総論

今季以前に複数回の詳細な調査が実施されたにもかかわらず、新たに20種が発見されたことは想定外であった。これらのうち4種は外来種で、国内での分布拡大が皇居においても通常通りなされていることが分かる。また発見場所の状況から、該当する外来種の拡大要因は建築資材や家畜用飼料の運搬、車両への付着による場合が多いといった他所での事例を補足する形となった。外来種については皇居以外の地域も含め今後の調査を行う上での参考として、ある程度有効なデータ取得ができたという認識である。残りの在来種16種については小型種や徘徊性の種が多く含まれる。また今回初めて行なった東御苑でのみ得られた種もある。今回の調査での初記録はこうした点も要因の一つである可能性がある。さらに今回発見されなかった種をまとめた表のリストでも分かるように、第Ⅱ期調査でも未発見の種や過去全ての調査でわずか1個体のみしか確認されていない種も多数存在する。こうした状況を踏まえると、今回の調査で初発見種がある程度生じたことは過去の事例にも倣った形と思われる。

皇居のように広大で多彩な自然環境を有する地

域では実際に生息する種数は多いと考えられるが、各回の調査担当者による採集方法の違いやメインで調査した箇所の違いにより回ごとに得られる種に差が生じることはあり得るはずである。そのため今回未発見であっても個体数の減少や地域内での絶滅について発見の有無のみで判断するのは適切ではない。ただ先に挙げたキシノウエトタテグモのように一部で例外的な事例も存在する。また過去の調査では対象外地域であった東御苑においてはわずか2回の短時間調査であったにもかかわらず、3種の外来種が発見された。これに加えて、家屋周辺で日常的によく見られるものの長らく確認されてこなかったイトグモ、イエオニグモ、イエユウレイグモ、アダンソンハエトリも即座に得られた（アダンソンハエトリについては2024年に生物学研究所でも1個体のみ得られた）。こうした状況から、皇居内でも場所の違いにより生息種の有無にある程度差異が生じていることが分かった。東御苑は従来の調査地である吹上御苑などの西方域と異なり建造物が多く、より人為的な環境である。厩舎付近でセアカゴケグモが初発見された2023年時は大規模な建て替え工事が行われており、建築用資材の運搬で頻繁に車両の乗り入れが生じている。また2回目となる2025年発見日の前日の事例にあるように、厩舎には定期的に海外からの馬用飼料が持ち込まれている。外来種や人為環境に馴染みやすい種が吹上御苑側より遥かに多く確認された理由はこうした状況に基づくと考えられる。前述の4種同様に人為環境に適応しているものの、いまだに発見がなされていないアシダカグモといった種も東御苑側には生息している可能性がある。

前回多数発見された南方系種であるスズミグモの生息継続は今回の調査では確認されなかったため、温暖化等の環境変動と生息との関係性については具体的な知見は得られなかった。ただ定着が確認された外来種のオダカユウレイグモはアフリカ原産で温暖な環境ほど適合しやすいと考えられるため、皇居を含む関東地方でも問題なく分布拡大している状況と思われる。

以上のようにⅢ期調査における総合的な成果としては、生息種のインベントリーがより詳細になったこと、人為環境の東御苑では従来の調査域とは生息種が大きく異なると分かったこと、外来種もしくはその可能性がある種の分布拡大状況に関するデータが得られたことがメインとなった。

謝 辞

本研究を行うにあたり、クモ類の採集時に協力いただいた筑波大学大学院の水越かのん氏、また一部の種について正確な同定を行なっていただいた谷川明男氏にお礼申し上げる。宮内庁庭園課の方々には調査の際に懇切なご案内をいただいた。厚くお礼申し上げます。

文 献

- 千国安之輔, 1989. 写真日本産クモ類大図鑑. 308pp. 偕成社.
- 市川武明, 2025a. 東京都でオダカユウレイグモを採集. *Kishidaia*, 126: 42–43.
- 市川武明, 2025b. 雑木林でシロホシヒメグモを採集. *Kishidaia*, 127: 35.
- 市川武明・五十嵐悠加・加藤俊英, 2025. 千葉県産タイリクカレハグモの採集および観察の報告. *Kishidaia*, 127: 18–20.
- 池田博明, 2015. 2014年度観察採集会報告藤沢市新林公園のクモ. *Kishidaia*, 107: 47–60.
- 入江照雄, 2001. オダカユウレイグモについて. *Kishidaia*, 80: 7–20.
- 加藤輝代子, 2019. 東京蜘蛛談話会2017年度観察採集会報告 市川市「行徳近郊緑地」のクモ. *Kishidaia*, 115: 157–162.
- 昆虫情報処理研究会, 2024. ゴケグモ類の情報センター. <https://www.insbase.ac/xoops2/modules/xpwiki/>, accessed on 5 March 2024.
- 森戸浩明, 2017. イトグモ (*Loxosceles rufescens*) によるイトグモ咬症 (loxoscelism) の1例. 日本皮膚科学会雑誌: 127(6), 1339–1344.
- Nentwig, W., P. Pantini & R. S. Vetter, 2017. Distribution and medical aspects of *Loxosceles rufescens*, one of the most invasive spiders of the world (Araneae: Sicariidae). *Toxicon*, 132: 19–28.
- 太田定浩, 1963. 三重県北部(北伊勢地方)の真正蜘蛛類目録. *Atypus*, 31: 1–8.
- 奥村賢一, 2024a. 長崎県におけるセアカゴケグモの近況報告. 長崎県生物学会誌, 94: 24–25.
- 奥村賢一, 2024b. 長崎県におけるクモ類外来種2種の現況. *Kishidaia*, 125: 1–5.
- 小野展嗣(編著), 2009. 日本産クモ類. xvi + 738 pp. 東海大学出版会.
- 小野展嗣, 2013. 明治神宮の森と庭園のクモ類. 第

- 二次明治神宮境内総合調査報告書, pp. 384-415.
- 小野展嗣, 2014. 皇居のクモ類. 国立科学博物館
専報, 50: 71-104.
- 小野展嗣・緒方清人, 2018. 日本産クモ類生態図
鑑. 714 pp. 東海大学出版部.
- 小野展嗣・奥村賢一・水山栄子・安藤昭久,
2019. 自然教育園のクモ類. 自然教育園報
告, 51: 123-142.
- 清水裕行・金沢 至・西川喜朗, 2002. 毒グモ騒
動の真実. 全国農村教育協会. 197pp.
- 清水裕行・金沢 至・西川喜朗, 2014. 日本のゴ
ケグモ類5種の分布状況とセアカゴケグモの
分散方法に関する考察. 大阪市立自然史博物
館研究報告, 68: 41-51.
- 新海 明・谷川明男, 2015. 採集情報. 遊絲,
36: 10-12.
- 新海 明・谷川明男, 2016. 採集情報. 遊絲,
38: 12-13.
- 新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田
隆生, 2024. CD日本のクモ Ver. 2024. 著者
自刊.
- 新海栄一, 2006. ネイチャーガイド日本のクモ.
文一総合出版. 335pp.
- 須黒達巳, 2024. 慶應義塾幼稚舎のクモの追加記
録. Kishidaia, 124: 71-74.
- 八木沼健夫, 1982. オダカユウレイグモ日本で発
見. Atypus, 80: 15-18.
- 吉田 哉, 2003. 日本産ヒメグモ科総説. 日本蜘蛛
学会. 223pp.